




# バウビオロギー 新 25 の指針 2018

バウビオロギーは、自然を範とする健康な家、持続可能で美しくつくられた生活環境のための判断基準を包括しています。問われるのは建材、空間造形に加え、生態的、経済的、社会的側面です。


 刺激をひきおこす素材、有害物質の使用を減らし、新鮮空気を十分に確保する

 健康を損ねるカビ、酵母菌、バクテリア、塵埃、アレルゲンを回避する


 無臭もしくは良い香りのする材料を用いる

 電磁場、無線（ワイヤレス）通信を最小限に

快適な室内環境  暖房のために放射熱源を優先する

 放射能（ラドン）のできるだけ少ない、自然素材、汚染されていない材料を用いる


 断熱と蓄熱、表面温度と空気温度の調和のとれた関係に留意する


 調湿性能をもった材料を用いる


 新築（躯体）の湿気の放散に注意する

建材の選択  部屋の音響、遮音を最適にする（低周波も含む）

 調和的なプロポーションと形態に注意を払う

 見る、聞く、嗅ぐ、触れるなど感覚知覚がもたらす印象を支援する


 自然に近い光のバランスと色に注意し、点滅のない照明（光源）を用いる


 生理学的、人間工学的な認識に配慮したインテリアと家具を提案する


空間の造形  地域の建築的伝統や手仕事の技に敬意を払い、支援する

 エネルギー消費を最小限にし、再生可能なエネルギーを利用する


 新築、改修にあつて、環境へのネガティブな影響を回避する


 天然資源は有限であり大切に利用する。動植物を保護しつつ


持続可能な環境の形成  地域固有の建築工法を優先し、エコ収支の観点から最もふさわしい材料や経済循環を選ぶ


 質の良い飲料水に注意を払う

 生活を支えるインフラデザインにおいて、バランスのとれた混合利用に配慮する：仕事場、学校、買い物、公共交通機関が近接するように

 環境を保護しつつも、人間の必要をかなえる生活空間をふさわしくかたちづくる

 地方や都市部のジードルンクに十分な緑地を確保する

エコ・ソーシャルな生活空間  地産地消、自給自足を強化する。地域サービスのネットワークを促進し、需要者と供給者とを結びつける

 できるかぎり廃棄物、汚染物質、放射線源、騒音の負荷を受けていない建設敷地を選ぶ

現実の諸条件のもと、判断基準がすべて充足されるわけではありません。  
しかし考察の中心には、それぞれ個的に実現可能な枠内での最適化が求められます。

Download : [www.25leitlinien.baubiologie.de](http://www.25leitlinien.baubiologie.de)

Baubiologie Institute of Japan, BIJ  
Kamisadori 460-1, Maebashi-shi, Gunma 3710816 Japan (bureau@baubiologie.jp <http://www.baubiologie.jp>)  
なお日本語版は、ドイツ語版（オリジナル）からの翻訳です。Translated by Tsuneo ISHIKAWA, July 2018

